

四季の歌

俳句・短歌教室の詠歌紹介

彼岸花あかき上衣を羽織りたる遍路の列か棚田の畦に住所録よりはらりと落つる年賀状筆跡美し亡き人の顯つ時雨降る優しく花に触るごと花びら浄めてやむともみえず午後八時利尻の夜の満天の星を仰ぎて歓声あぐる張られたる蜘蛛の糸だに絹糸の光沢にかがやく秋陽あそばせよちよちと這ひ来て「だっ」と言ひるし孫やがて成人の日をむかえむとすゆくりなく外科医の歌に出合いけり向きあう生命のすさまじきこと西空の淡き満月背にうけて露玉こぼす枝豆を採る

高村 三也
三村 和子
越智 早苗
福田キヨ子
前田 信子
白石 信子
八代 範夫
白石 清和

はな・露の臺句会

深秋や六字名号軸を掛け
花石露に案内をされて野草苑
釣人と一会の会話秋うらら、
犀川は英彦の支流や蘆の花
陽の匂ひ残る蒲団に寝息たて
道標は昔村の名鴨飛来
枯菊を焼きて回顧の日でありし
感動は言葉にならず照紅葉
立冬の日差し背に受け朝散歩
秋しぐれもたらす景色園の庭

池田一歩選

日高八重子
松本 三男
山本ひろし
香月 眸
高津 澄子
熊谷カツミ
本島真知子
桑野 園女
井上タミ子
永末 公恵

福智町金田公民館俳句教室

蓼虫の風揺りかごの眠りかな
鷹渡る平家滅びし海峡を
秋晴も乗せて観光人力車
柿の渋ぬけていくよな日和かな
行きゆきて花野の果ての山頭火
僧の背の色なき風に忌を修す
芒野に風音生まれそして消ゆ
膝痛し夜長の無聊いかにせん
月今宵生きてる日の米を研ぐ
稲架組むや黄金の風を孕みつつ

岩井鬼童選

建部三由紀
長副美恵子
西田 真美
松岡 蔦枝
仲谷ひろえ
今井三千代
山本 空木
小川 雪
加藤きみ子
日比生利子

方城句会

厨窓晩秋の雲流れけり
木犀の香に誘われ回り道
白波の起伏しずめて神渡
埋火や暁闇の朝影に
老松の紅葉陽に映へ佇みぬ
法螺響く柞の窟古刹かな
沢隔て採れぬ通草の熟れてをり
柿紅葉懇親の膳彩りぬ
尻のやや色づき始む青蜜柑

池田一歩選

藤井耿之介
渡邊 一枝
尾崎 和子
木村 誠一
倉石嘉代子
白石 凡子
杉 フジエ
長尾 冴子
長末 耕一

福智の風

▶「有名観光地には一度は訪れたいと思いますが、それだけではライターを獲得できません。大事なのは人と人のつながりです」と、断言した藤原さん(P.4)。私とのつながりは取材時間の約30分でしたが、1週間後に直筆の絵手紙をいただいた。忙しさを言い訳に、何もしなかった自分に恥ずかしさを覚えると共に今後の行動を改めたいと思った。(久原)

▶以前「食欲の秋」宣言をしました。今秋は本当によく食べました。取材に何うたびに秋の味覚が私を手招きし、思わずパクパク。気付けば体重が〇kg増え、久しぶりに会った友人には「あれ？」と言われることもしばしば。「摂生を」と考えるも、目前には鍋が恋しくなる季節。自制なきやと思いつつ、冬の味覚が楽しみでなりません。(相原)

写真が語る 写真館
なみの写真館

旧金田駅から関西へ出発
提供者●植田 辰夫さん
撮影日●昭和35年

当時の修学旅行は、片道が半日以上かかり、一苦勞。現在は移動手段が変わり、時間も大幅に短縮されました。ただ、出発前の期待と緊張の交じった表情は、今も昔も変わりません。

昔の写真を探しています！
☎ 総務課広報・広聴係
☎ 22-0555

Pickup Topics



1 親子で楽しめる多様な作品が集まった展示会場。2 本格的なお茶席。3 お茶席で聴いた一曲。4 濃厚な雰囲気漂う謡曲・仕舞の舞台。5 日舞・民謡では日々磨いた演舞で観客を魅了。6 盤上で実力者たちが熱き頭脳戦を展開。7 手作りの年賀状が作れる体験コーナー。8 自慢のノドを披露した歌謡・詩吟の出演者。9 美声を響かせたふれあいコンサート。

Pickup Topics



感性に響く文化の祭典

10月28日から一か月に渡って開催された福智町文化祭。各会場で繰り広げられた町のアーティストたちの発表は、紅葉が彩る福智山とともに、訪れた人の心を大きな感動で包み込みました。その様子を写真でお届けします。



10月28日から11月25日までの一か月間、福智のアーティストたちが磨き抜いた技や表現を披露しました。

まずスタートを切ったのは、10月28日に同和対策研修センターで行われた「歌謡・詩吟発表会」。出演者たちは持ち歌を朗々と披露し、自慢のノドを会場に響かせました。11月3日・4日は、金田体育館で3千116点もの作品が一堂に集った「作品展示」。創造者の感性が来場者の足を引き止め、感動の声と共にそれぞれの世界へと引き込みました。10日から18日にかけて、地域交流センターやコスモス保健センターで「芸能発表会」が行われました。卓越した身のこなしや演奏を披露し、演目が終わるたびに観客から鳴りやまない拍手と歓声

を受けました。中央公民館で行われた「囲碁大会」は盤上で静かな熱戦を展開。そして、最終日となった25日の「ふれあいコンサート」では、出演者たちのハーモニーが地域交流センターを癒やしの美声で包み込みました。

5週に渡って繰り広げられた福智町文化祭は、芸術の秋と見事に融合。来場者の心を大きな感動で包み込みました。



絵画や書、生け花、手芸、伝統的工芸品の山野焼などがズラリと並んだ展示会場には、2日間で延べ3千人が来場。子どもから大人まで、作品の魅力に身も心も引き込まれていました。